



写真の個体は冬期に北潟湖で刺網にかかったもので、幼魚が極稀に見られる。全長：約25cm

カライワシ科 カライワシ属 【全長】 120cm

カライワシ

学名：*Elops hawaiensis*

分布域

富山県・茨城県以南に分布し、
ハワイやインド洋にも分布する。

生息域

沿岸・沖合の表層部に生息する。
幼魚は汽水域にも侵入する。



口は大きく、顎に薄い膜が見られる。

体形は細長く、口は大きい。全ての鰭には棘がない。体色は銀白色で、鱗は小さい。背鰭基底は小さく三角形で、尾鰭の切れ込みは大きい。葉形仔魚(レプトケファルス)期を有する。暖海域の比較的浅い場所に生息する南方系の魚類。幼魚は汽水域にも侵入する。食性は動物食性で小魚や甲殻類などを食べる。120cmを超える大型魚。沿岸域でルアー釣りの対象にもなるそうだが、小骨が多く食用として流通することは少ない。

分類に於いても様々な説があり、古い時代に現れた種の様である。県内では冬季に北潟湖で稀に見られる程度で少ない種だと思われる。

水槽での飼育は経験が無く、情報不足。

在来種

海水魚

※ 写真の個体は、冬期に北潟湖内(汽水域)で採集したもので、冬期以外には記録はない。海が荒れ湖内に避難してきたものか?と思われる。